

高校生価値意識調査 2018

「現在の幸福感と将来のイメージ」

**高校生の4人に3人が「今、幸せ」であり、
約7割が「自分の将来も明るい」と回答。
一方、「人生100年時代」については、
好ましいと好ましくないの割合が拮抗。**

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ（本社：東京都品川区 代表取締役社長 山口 文洋）が運営する、リクルート進学総研（所長：小林 浩）は、高校生の社会観・キャリア観・進学観・ライフデザインに関する調査「高校生価値意識調査」を実施いたしました。この度調査結果がまとまりましたので、一部をご報告いたします。

今の自分は、幸せだと思うか

- **高校生の76.8%が、“今、幸せ”**（「幸せ・計」の集計）

自分の将来は、明るいか

- **高校生の68.5%が、自分の将来が“明るい”**（「明るい・計」の集計）
東日本大震災後の2012年調査より「明るい・計」が13.2ポイント上昇

IT・AIが普及した社会で『自分が働くこと』について

- **高校生の72.9%が、“好ましい”**（「好ましい・計」の集計）
- **男子の方が、女子よりポジティブにとらえている**
「好ましい・計」の男子は80.7%、女子は64.9%。男女間に15ポイント以上の差
- **「好ましい理由」は、「仕事が楽・効率的になりそう（61.7%）」が突出**
男女ともに、IT・AIと共存した働き方をイメージしている
<好ましい理由>回答者のトップ3
1位：仕事が楽・効率的になりそう（61.7%）
2位：今は存在しない新たな職業や仕事をする事ができそう（32.9%）
3位：危険な仕事をしなくてよくなりそう（22.5%）
- **「好ましくない理由」は、「人間の仕事がなくなり就職難になりそう（70.0%）」が突出**
<好ましくない理由>回答者のトップ3
1位：人間の仕事がなくなり就職難になりそう（70.0%）
2位：今、就きたい・興味がある仕事がなくなりそう（43.0%）
3位：ITやコンピューターが苦手だから（12.3%）

「人生100年時代」について

- **“好ましい”と“好ましくない”が、二分される結果に**
「好ましい・計」45.6%、「好ましくない・計」45.7%、「わからない」8.8%
- **男子はポジティブ、女子はネガティブ**
「好ましい・計」の男子は50.3%と半数超え、女子は40.8%で半数以下
- **大都市圏の方が、ややネガティブ**
「好ましい・計」は、大都市圏44.9% < 大都市圏以外46.2%

※出版・印刷物へデータを転載する際には、“「高校生価値意識調査 2018」リクルート進学総研調べ”と明記いただけますようお願い申し上げます。

【本件に関するお問い合わせ先】
株式会社リクルートマーケティングパートナーズ広報担当
https://www.recruit-mp.co.jp/support/press_inquiry/

【調査概要】

■ 調査目的

高校生の将来イメージおよび進路選択に対する価値意識を把握する。

■ 調査期間

2018年9月12日（水）～9月14日（金）

■ 調査方法

インターネット調査

■ 調査対象

2018年9月現在、高校1年生～高校3年生で大学・短期大学・専門学校いずれかへの進学を検討している男女。株式会社マクロミルのモニター会員のうち、2018年9月時点の高校生を対象にスクリーニング調査を実施。この調査は、2007年～2014年まで隔年（※）4月に実施してきたが、2015年・2018年は9月に行った。

（※）= 2007年、2009年、2012年、2014年の4回実施。2011年は東日本大震災の影響を考慮して2012年に実施を延期した

2007年～2014年調査は4月に調査実施であるため、調査実施年3月時点での高校生のうち以下2条件いずれか該当者を調査対象としている。

①調査年度4月時点において高校2年生～高校3年生で、大学・短期大学・専門学校いずれかへの進学を検討している男女。

②調査年度4月時点において高校既卒者であり、高校在学中に大学・短期大学・専門学校いずれかへの進学を検討したことがある男女。

■ 有効回答数

1448人

調査対象条件に該当した者から、文部科学省「平成29年度学校基本調査 全日制・本科 生徒数(県別)」を基に、[関東][東海][関西][その他]の4エリア別に調査(サンプル)数が実際の生徒数の比となるよう設定した。

[関東]エリア：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

[東海]エリア：岐阜県、静岡県、愛知県、三重県

[関西]エリア：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

[その他]エリア：上記以外の都道府県

[関東][東海][関西][その他]エリアそれぞれにおいて、文部科学省「平成29年度学校基本調査」から調査対象者の母集団の男女構成比を算出し、回収あとの4エリア内の男女構成比をウエイトバック集計により補正を行った。

	【回収実数】 ウエイトバック前			ウエイト値		【補正調査数】 ウエイトバック後		
	全体	男子	女子	男子	女子	全体	男子	女子
全体	1,448	370	1,078	-	-	1,448	728	720
4エリア別								
関東	458	124	334	1.854	0.685	459	230	229
東海	178	45	133	1.991	0.662	178	90	88
関西	244	62	182	1.954	0.669	243	121	122
その他エリア	568	139	429	2.069	0.655	569	288	281

※2012年・2014年・2015年の調査方法は2018年と同じ。

※2009年調査について

・調査方法：郵送調査

・調査対象：株式会社カルチャー・コンビニエンス・クラブのモニター会員のうち、高校2年生、3年生、新大学1年生の男女。

・集計対象数：1273人

[関東][東海][関西][その他]エリアそれぞれにおいて、当該年度の母集団の男女構成比を算出し、エリア毎の男女構成比を補正している。

【調査対象者プロフィール】

■ 現在(2018年9月)の学年 (全体/単一回答)

(%)

	高校1年生	高校2年生	高校3年生
2018年 全体 (n=1448)	33.4	32.6	34.0

■ 性別 (全体/単一回答)

(%)

	男性	女性
2018年 全体 (n=1448)	50.3	49.7

■ 高校所在エリア (全体/単一回答)

(%)

	関東	東海	関西	その他 エリア	北海道	東北	甲信越	北陸	中国・ 四国	九州・ 沖縄
2018年 全体 (n=1448)	31.7	12.3	16.8	39.3	3.7	7.5	5.1	2.4	9.6	10.9
性別 男子 (n= 728)	31.6	12.3	16.6	39.5	2.3	7.7	5.4	2.6	11.1	10.5
性別 女子 (n= 720)	31.8	12.2	16.9	39.1	5.2	7.3	4.8	2.3	8.2	11.3

■ 高校卒業後の希望・検討進路:すべて (全体/複数回答)

(%)

	進学希望・計				
	大学 進学	短期大学 進学	専門学校 進学	就職	その他
全体 (n=1448)	78.2	15.6	37.0	16.0	2.5
性別 男子 (n= 728)	85.2	10.9	30.3	17.8	3.0
性別 女子 (n= 720)	71.1	20.4	43.9	14.3	2.0

※表内 **+10.0** [2018年 全体]よりも10ポイント以上高い **- 5.0** [2018年 全体]よりも 5ポイント以上低い
+ 5.0 [2018年 全体]よりも 5ポイント以上高い **-10.0** [2018年 全体]よりも10ポイント以上低い

今の自分は、幸せだと思うか

■ 高校生の76.8%が、“今、幸せ”

- ・ 経年でみても「幸せ・計」は、常に7割を超えており高止まりで安定。
(2014年75.9%→2015年78.1%→2018年76.8%)
- ・ 男女・エリア別 共に、ほぼ差がない。

■ 「幸せ」の理由で、最も多かったのは「衣食住に困らない、不自由のない生活 (17.0%)」

■ 「幸せではない」理由で、最も多かったのは「楽しくない、つまらない (9.5%)」

※理由のフリーコメントをコーディング集計

■ 今、「幸せだ」と思うか【時系列】(全体/単一回答)

(%)

	n	幸せ・計		幸せではない・計			幸せ・計	幸せではない・計
		幸せだと思ふ	どちらかというと思ふ	どちらかというと思ふ	幸せではないと思ふ	考えたことがない		
*凡例								
2018年 全体	(n=1448)	27.1	49.7	11.2	10.1	2.0	76.8	21.3
2015年 全体	(n=1437)	28.6	49.5	11.1	7.8	3.0	78.1	18.9
2014年 全体	(n=1438)	25.8	50.1	10.9	8.5	4.6	75.9	19.5

※本調査で「現在の幸福度」を調査し始めたのは2014年から

■ 今、「幸せだ」と思うか (全体/単一回答)

(%)

	n	幸せ・計		幸せではない・計			幸せ・計	幸せではない・計
		幸せだと思ふ	どちらかというと思ふ	どちらかというと思ふ	幸せではないと思ふ	考えたことがない		
*凡例								
2018年 全体	(n=1448)	27.1	49.7	11.2	10.1	2.0	76.8	21.3
性別 男子	(n= 728)	26.7	49.5	10.9	10.3	2.6	76.2	21.2
性別 女子	(n= 720)	27.6	49.8	11.5	9.8	1.3	77.4	21.3
高校所在 エリア別 アーバン(大都市圏)	(n= 703)	27.5	50.8	9.6	9.6	2.6	78.2	19.2
ローカル(大都市圏以外)	(n= 745)	26.8	48.6	12.6	10.6	1.4	75.4	23.2

※表内
+10.0 「2018年 全体」よりも10ポイント以上高い
+ 5.0 「2018年 全体」よりも 5ポイント以上高い
- 5.0 「2018年 全体」よりも 5ポイント以上低い
-10.0 「2018年 全体」よりも10ポイント以上低い

※「高校所在エリア別」は47都道府県を以下の通り分類している。
 アーバン(大都市圏): 東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、愛知県、大阪府、京都府、兵庫県
 ローカル(大都市圏以外): 上記の都府県以外

「幸せ」の理由 (フリーコメントで記述された内容)

- 1位: 衣食住に困らない、不自由のない生活 (17.0%)
- 2位: 楽しい、笑ってられる (14.1%)
- 3位: 友達・仲間がいる、友達ができた (13.4%)
- 4位: やりたいことができる、好きなことができる、希望を応援してもらえる (11.9%)
- 5位: 学校生活が楽しい、学校に行ける (10.9%)

※補足: %は「幸せ・計」回答者に占める割合 (n = 1112)

「幸せではない」の理由 (フリーコメントで記述された内容)

- 1位: 楽しくない、つまらない (9.5%)
- 2位: 学校生活が楽しくない、学校に行きたくない (6.9%)
- 3位: 家庭が経済的に苦しい、お金がない (6.8%)
- 4位: 満足していない、不満がある、思い通りにいかない (6.3%)
- 5位: 忙しい、時間・余裕がない、勉強と部活が両立できない (6.1%)
 悩み・不安・つらいことがある (6.1%)

※補足: %は「幸せではない・計」回答者に占める割合 (n = 308)

自分の将来は、明るいか

■ 高校生の68.5%が、自分の将来が“明るい”

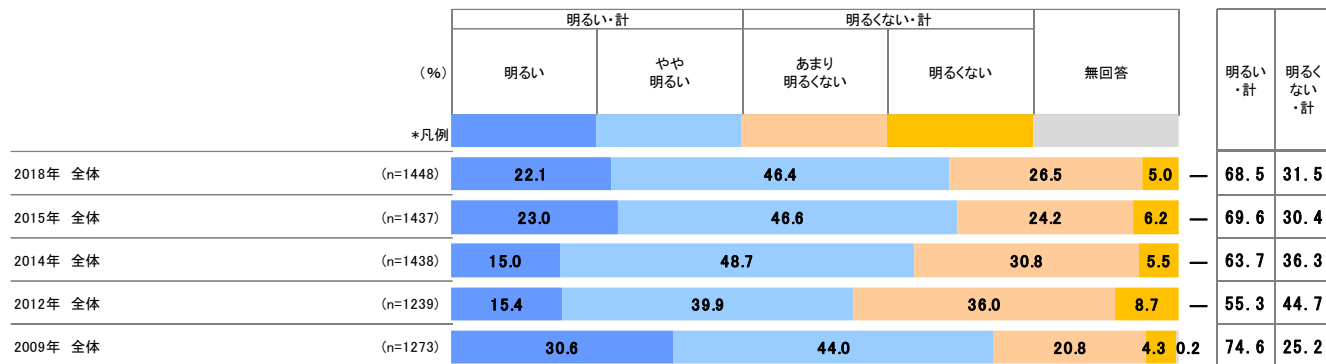
● 東日本大震災後の2012年調査より「明るい・計」が13.2ポイント上昇

経年でみると「明るい・計」は2012年に5割台まで低下したが、2014年以降は上昇に転じ、約7割になっている。2015年と比較すると、ほぼ横ばいとなった。

この変動の背景として、2008年リーマンショックや2011年東日本大震災、2013年以降の景気回復の影響が想定され、高校生の将来に向けての価値観は社会環境を大きく反映していることがうかがえる。

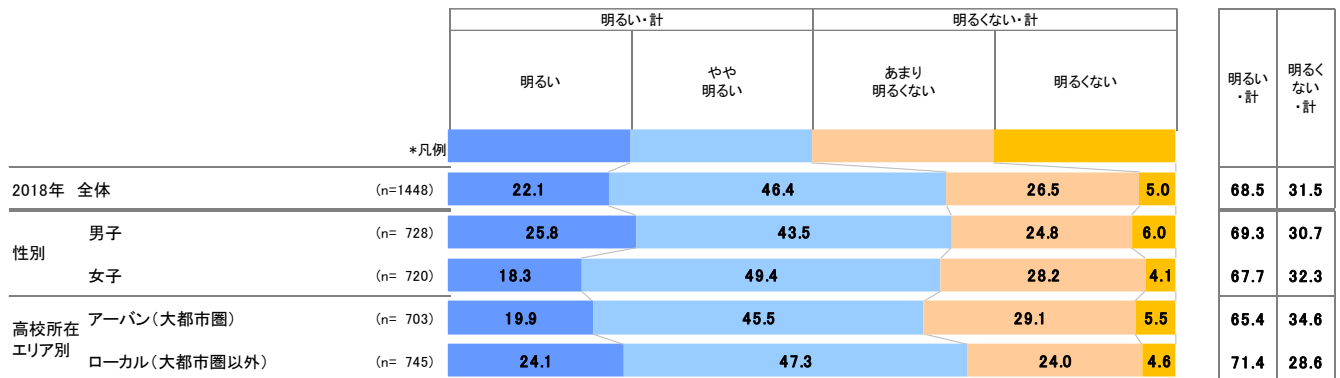
(2009年74.6%→2012年55.3%→2014年63.7%→2015年69.6%→2018年68.5%)

■ 将来の明るさ: 自分自身の将来【時系列】(全体/単一回答)



※2009年: 郵送調査のため、「無回答」が出現する ※本調査で「将来の明るさ: 自分自身の将来」を調査し始めたのは2009年から

■ 将来の明るさ: 自分自身の将来 (全体/単一回答)



※表内 +10.0 「2018年 全体」よりも10ポイント以上高い
+ 5.0 「2018年 全体」よりも 5ポイント以上高い
- 5.0 「2018年 全体」よりも 5ポイント以上低い
-10.0 「2018年 全体」よりも10ポイント以上低い

※「高校所在エリア別」は47都道府県を以下の通り分類している。
アーバン(大都市圏): 東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、愛知県、大阪府、京都府、兵庫県
ローカル(大都市圏以外): 上記の都府県以外

「明るい」理由 (フリーコメント)

- 明るいものと思いたい。そう思わないとこれからの人生つまらないから。[男子/ローカル]
- たくさんの友人を持ち、彼らとだったらどんなつらいことも乗り越えられる気がする。[男子/アーバン]
- もっと努力し、興味のある仕事をたくさん経験して、日々の生活が充実しそうだから。[女子/ローカル]
- 難関大に合格して、自分の将来の安定はある程度見込めると思われる。[男子/アーバン]
- 既に自分の将来設計を立てていて、それを実現するために頑張るつもりでいるから。[女子/ローカル]
- 目標やなりたい職業がありそのために専門学校へ通い必要な技術が学べると思うから。[女子/アーバン]

「明るくない」理由 (フリーコメント)

- このまま社会に出てもうまくできるかがまだ全然イメージできないから。[男子/ローカル]
- やりたいことがないので、その時の気持ちで生きていけばいいと思っているから [女子/アーバン]
- 努力しても、一握りの人しか叶えることができないから。[女子/ローカル]
- 勉強が全く出来ない。学歴社会にいる以上、不安しかない。[男子/アーバン]
- 奨学金を借りるので社会人となったときの返済が大変そうだから。[女子/ローカル]
- 消費税の増税や少子高齢化が更に深刻な状態になり、経済的に不安だから。 [女子/アーバン]

■ 高校生の72.9%が、“好ましい”

■ 男子の方が、女子よりポジティブにとらえている

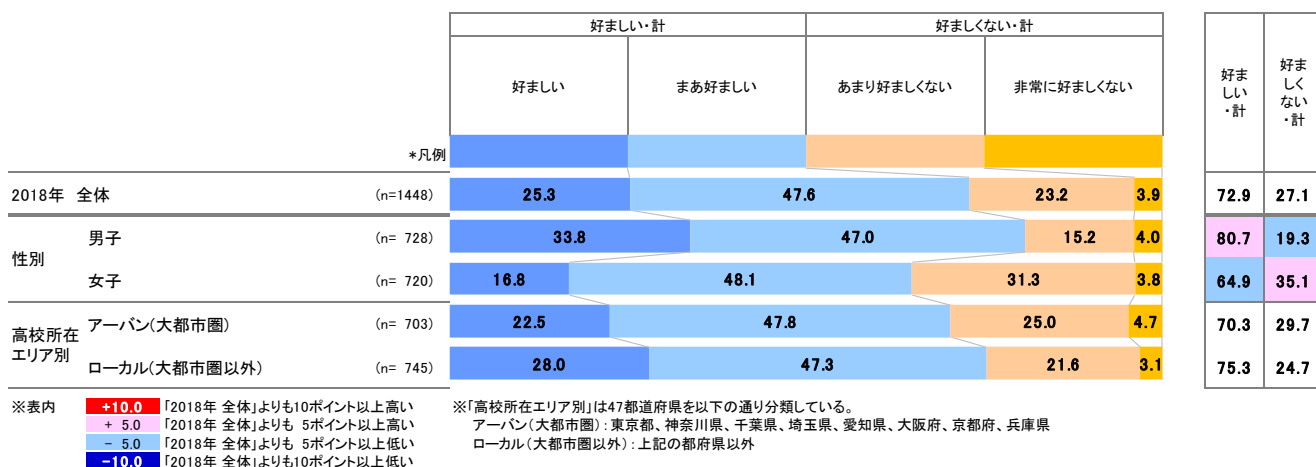
- 男女別にみると「好ましい・計」の男子は80.7%、女子は64.9%で、男子の方が15ポイント以上高く、とてもポジティブにとらえている。

■ 大都市圏以外の方が、大都市圏よりポジティブにとらえている

- 高校所在エリア別にみると「好ましい・計」の大都市圏以外は75.3%、大都市圏は70.3%で、大都市圏以外の方が5.0ポイント高く、ポジティブにとらえている。

■自分がIT・AI・ロボティクス技術が普及・発達する社会に出て働くことについて（全体／単一回答）

(%)



■ 「仕事が楽・効率的になりそう (61.7%)」が突出。
男女ともに、IT・AIと共存した働き方をイメージしている

・ <好ましい理由> 回答者のトップ3

- 1位：仕事が楽・効率的になりそう (61.7%)
- 2位：今は存在しない新たな職業や仕事をすることができそう(32.9%)
- 3位：危険な仕事をしなくてよくなりそう (22.5%)

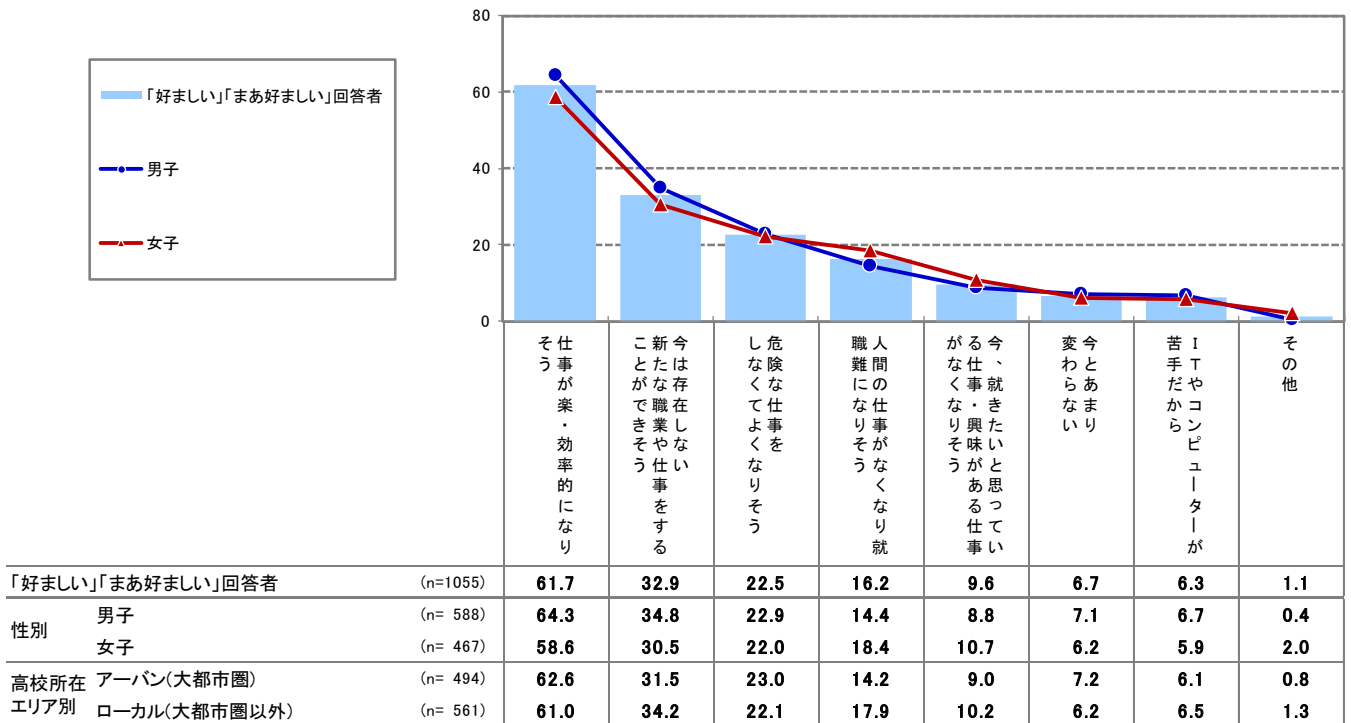
■ IT・AIの普及で「仕事の効率性」や「今は存在しない新たな職業や仕事に就ける」という期待は男子が女子を上回る

男女で理由の順位に違いはないが「仕事が楽・効率的になりそう」と「今は存在しない新たな職業や仕事をすることができそう」の理由で男子の方が5ポイント程度高く、より期待感を持っていることがわかる。

	男子	女子	ポイント差
1位：仕事が楽・効率的になりそう	64.3%	58.6%	(差5.7)
2位：今は存在しない新たな職業や仕事をすることができそう	34.8%	30.5%	(差4.3)

■ 自分がIT・AI・ロボティクス技術が普及・発達する社会に出て働くことについて、好ましいと思う理由
 (「好ましい」「まあ好ましい」回答者/複数回答)

(%)



※「2018年 全体」の降順ソート

※表内
+10.0 「2018年 全体」よりも10ポイント以上高い
+ 5.0 「2018年 全体」よりも 5ポイント以上高い
- 5.0 「2018年 全体」よりも 5ポイント以上低い
-10.0 「2018年 全体」よりも10ポイント以上低い

※「高校所在エリア別」は47都道府県を以下の通り分類している。
 アーバン(大都市圏)：東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、愛知県、大阪府、京都府、兵庫県
 ローカル(大都市圏以外)：上記の都府県以外
 ※「好ましい」「まあ好ましい」回答者の降順ソート

■ 「人間の仕事がなくなり就職難になりそう（70.0%）」が突出

・ <好ましくない理由> 回答者のトップ3

1位：人間の仕事がなくなり就職難になりそう（70.0%）

2位：今、就きたいと思っている仕事・興味がある仕事がなくなりそう（43.0%）

3位：ITやコンピューターが苦手だから（12.3%）

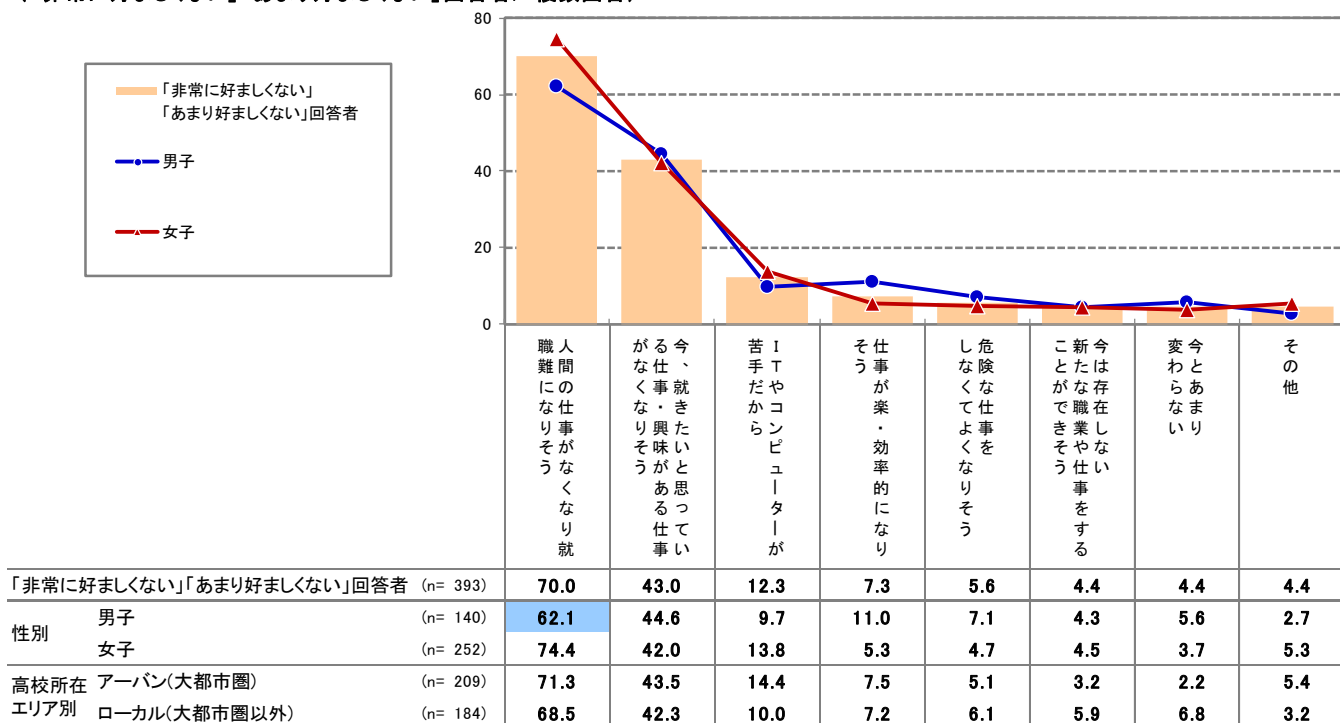
■ 女子は男子よりもIT・AIの普及で「人間の仕事がなくなり就職難になりそう」という危惧を抱いている（12.3ポイントの差）

「人間の仕事がなくなり就職難になりそう」の理由は、男女で12ポイント以上の開きがあり、女子の方が就職難になることを、より危惧している。

	男子	女子	ポイント差
1位：人間の仕事がなくなり就職難になりそう	62.1%	< 74.4%	(差12.3)

■ 自分がIT・AI・ロボティクス技術が普及・発達する社会に出て働くことについて、好ましくないと思う理由（「非常に好ましくない」「あまり好ましくない」回答者／複数回答）

(%)



※「2018年 全体」の降順ソート

※表内
+10.0 「2018年 全体」よりも10ポイント以上高い
+ 5.0 「2018年 全体」よりも 5ポイント以上高い
- 5.0 「2018年 全体」よりも 5ポイント以上低い
-10.0 「2018年 全体」よりも10ポイント以上低い

※「高校所在エリア別」は47都道府県を以下の通り分類している。

アーバン(大都市圏)：東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、愛知県、大阪府、京都府、兵庫県
 ローカル(大都市圏以外)：上記の都府県以外

※「「非常に好ましくない」「あまり好ましくない」回答者」の降順ソート

「人生100年時代」について

■ “好ましい” と “好ましくない” が、二分される結果に

- ・ 「好ましい・計」 45.6%、「好ましくない・計」 45.7%、「わからない」 8.8%

■ 男子はポジティブに、女子はネガティブにとらえている

「好ましい・計」の男子は50.3%と半数を超えている。女子は40.8%で半数以下。

	好ましい・計	好ましくない・計	わからない
・ 男子	50.3%	41.8%	7.9%
・ 女子	40.8%	49.6%	9.6%

■ 大都市圏の方が、ややネガティブにとらえている

	好ましい・計	好ましくない・計	わからない
・ 大都市圏	44.9%	47.2%	8.0%
・ 大都市圏以外	46.2%	44.3%	9.5%

※「今の高校生が高齢者になる頃には、約半数の人が100歳まで生きると言われています。人生が100歳まで長くなることについてどう思いますか。」と質問した結果

■ 「人生100年時代」の好ましさ（全体／単一回答）

	好ましい・計	好ましくない・計				わからない・イメージできない	好ましい・計	好ましくない・計
		好ましい	まあ好ましい	あまり好ましくない	非常に好ましくない			
*凡例								
2018年 全体 (n=1448)	18.9	26.6	33.1	12.6	8.8	45.6	45.7	
性別								
男子 (n= 728)	22.1	28.2	29.3	12.5	7.9	50.3	41.8	
女子 (n= 720)	15.8	25.0	36.9	12.7	9.6	40.8	49.6	
高校所在エリア別								
アーバン(大都市圏) (n= 703)	19.5	25.3	34.5	12.7	8.0	44.9	47.2	
ローカル(大都市圏以外) (n= 745)	18.4	27.8	31.8	12.5	9.5	46.2	44.3	

※表内
+10.0 「2018年 全体」よりも10ポイント以上高い
+ 5.0 「2018年 全体」よりも 5ポイント以上高い
- 5.0 「2018年 全体」よりも 5ポイント以上低い
-10.0 「2018年 全体」よりも10ポイント以上低い

※「高校所在エリア別」は47都道府県を以下の通り分類している。
 アーバン(大都市圏)：東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、愛知県、大阪府、京都府、兵庫県
 ローカル(大都市圏以外)：上記の都府県以外

好ましい理由（フリーコメント）

- 老後の人生が充実し第二の人生がより楽しめそう。自分のしたいことに取り組みそうだから。[男子/ローカル]
- 1年でも長生きすることでやりたいことが増えたり達成できる数も増えるから。[女子/ローカル]
- 長生きして人の役に立てることをして喜びややりがいを感じたい。[男子/ローカル]
- 健康でいられれば人生を楽しむ時間が長くなるから。[女子/アーバン]
- 医療技術の進歩の証であり、自分が何かを成し遂げられる期間が延びるから。[男子/アーバン]
- 平均寿命が伸び、長寿国として世界に健康でいる大切さなどを伝えられると思うから。[女子/ローカル]

好ましくない理由（フリーコメント）

- 今よりは働ける高齢者が増えると思うが、動けない高齢者の方がより多くなると思われる。そのため医療費など国の負担が多くなると思うから。[女子/アーバン]
- 健康寿命が長ければよいが、寝たきりだと社会的負担が増えるから。年金受給者が増える一方で労働者が減少し、若者に負担がかかりすぎるから。[女子/ローカル]
- 高齢者のほとんどが介護を必要としますが、介護は非常に経済的にも労力的にも煩わしいものであるため身内などに迷惑をかける可能性が高いから。[男子/ローカル]
- 80歳や90歳になったときにはもう働けず、体も健康ではない可能性が高く、生きる意味を見出せなくなっているかもしれないから。[女子/アーバン]
- 老害にはなりたくない。[女子/アーバン]
- 健康寿命を全うしてから往生する時間が長すぎるため、年金がもらえない等で生活苦になりかねないから。[女子/アーバン]